

「GIGAスクールさいたまモデル」 実現に向けて

「教育DX」を推進する プロフェッショナル人材を

さいたま市教育委員会
教育長 細田 眞由美



OECD 2018 PISAの結果から

■日本の15歳「読解力」が15位に低下

	読解力	平均 得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555
2	シンガポール	549
3	マカオ	525
4	香港	524
5	エストニア	523
6	カナダ	520
7	フィンランド	520
8	アイルランド	518
9	韓国	514
10	ポーランド	512
11	スウェーデン	506
12	ニュージーランド	506
13	アメリカ	505
14	イギリス	504
15	日本	504
16	オーストラリア	503
17	台湾	503
18	デンマーク	501
19	ノルウェー	499
20	ドイツ	498
信頼区間※(日本): 499-509		

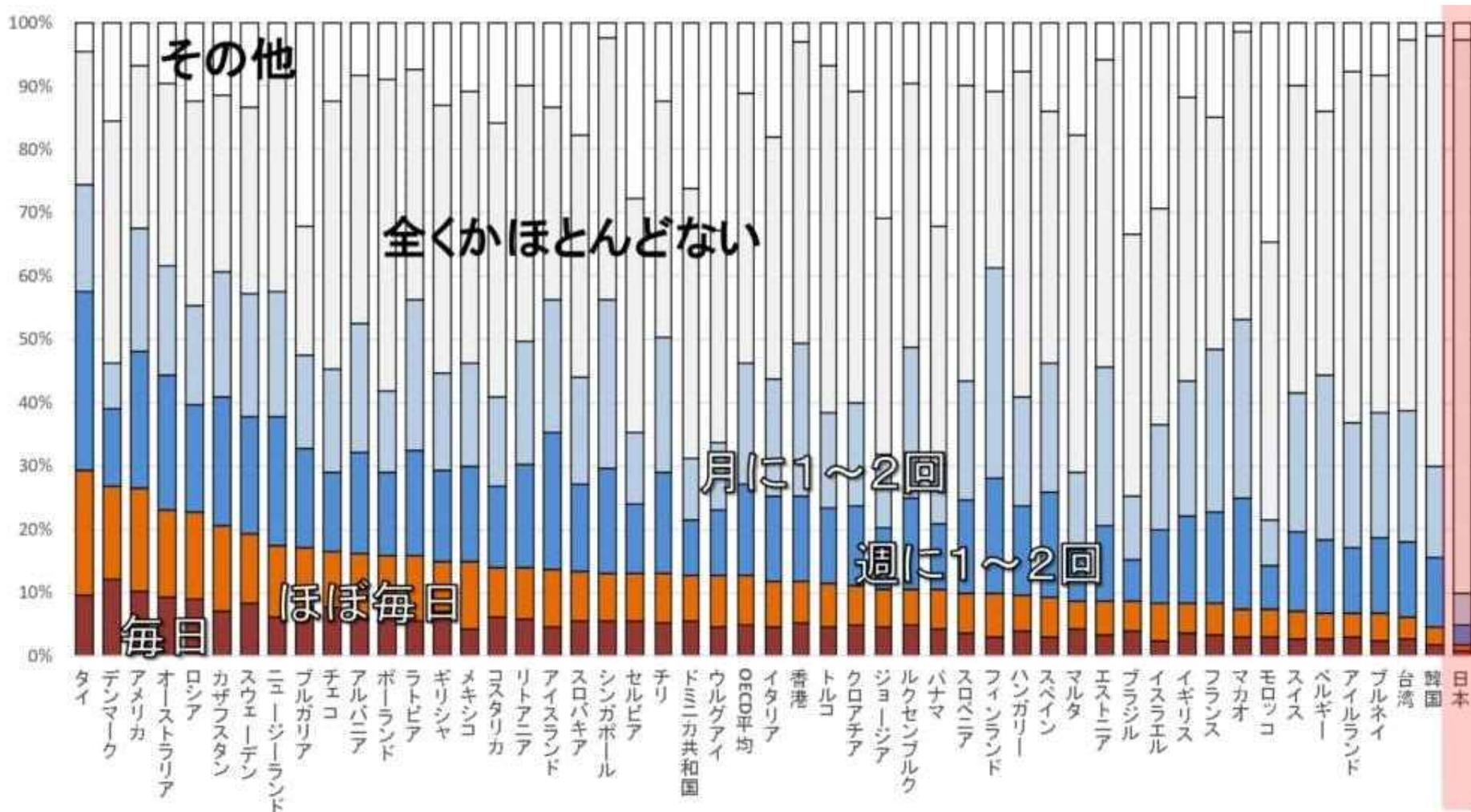


2018調査(読解力問題)
3種類の課題文で構成
○大学教授のブログ
○書評
○オンライン科学雑誌の
記事

○2015年調査より、
コンピュータ使用型
調査(CBT)に移行
○PISA型「読解力」
情報を探し出す/
理解する/評価し
熟考する

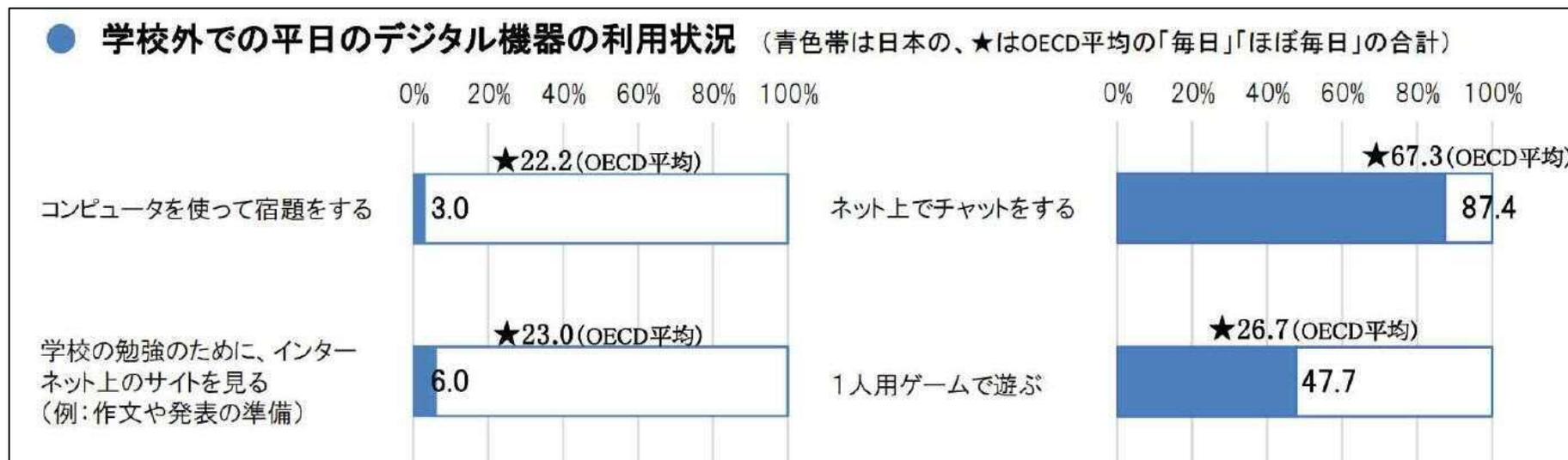
OECD 2018 PISAの結果から

■学校でのICT活用状況調査



OECD 2018 PISAの結果から

■学校外でのICT活用状況調査



- 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下
- 学習外（ゲームやチャット等）ではOECD平均以上
- 日本の子どもたちは学習にICTを活用していない

→他国は、ICTを学習のツールとして活用しているが、日本は遊び道具としてしまったのか!?

令和時代の学校教育スタンダード

■「GIGAスクール構想」実現へ

- 2020年度内に高速大容量の通信ネットワークの整備及び2023年度までに1人1台端末の整備
- 多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現



新学習指導要領の全面実施に向けて

■さいたま市教育「ICTを活用した学びの改革」

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために
ICTを活用したアクティブ・ラーニングの推進
- 「あと5年経てば学校教育は一変する。学校での
学びと、ICTを活用した自律的な個別最適化した
学びの融合で、日々の教育活動が実践されること
になるだろう」と考え、着々と準備を進めてきた

2023年度までに計画的に準備を進めていこう！

新型コロナウイルス感染拡大の中で

■ 「GIGAスクール構想」の加速化

○突然の学校の臨時休業により事態は一変した

→子どもたちの学びが止まってしまった

○文部科学省は、学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現するよう指示

○国の緊急経済対策による補正予算により「GIGAスクール構想」の加速化が現実のものとなる

1人1台端末2023年度内整備⇒2020年度内整備

→第2波が襲ってきた場合も学びを止めない！

学校の臨時休業中のさいたま市の様子

■学びを止めないための様々な取組

- 学習プリントの配布や家庭訪問の実施
- 子どもたちの心を支える「心のサプリ」の配信
- 図書館、博物館、美術館等生涯学習施設からの「学びの玉手箱」配信
- 168校約6000人の教職員作成のデジタルコンテンツ「スタディ・エッセンス」での学習

**→しかしすべての子どもたちの「学びの保証」ができた
とは言えなかったのでは・・・**

新型コロナウイルス感染拡大の中で

■ 「学びの保証」における見えてきた課題

○家庭のIT環境が整っていない現状

子ども自身が情報端末を所持している割合は約35% * 保護者のスマホ等も活用し約95%

→同時双方向のオンライン授業の実施は困難

○教員のデジタルコンテンツ作成のための知識やノウハウの不足

○「デジタルコンテンツを使った学び」に慣れていなかった

○「学びに対する自律性」が育っていなかった

「GIGAスクール構想」の実現の加速化

■ 「GIGAスクール構想」で何が変わるか

タブレット端末
約1万9千台



タブレット端末
約10万台

○単に学校の中に情報端末が大量に導入されるだけではない！

→教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)を進めていかなければならない！

「GIGAスクールさいたまモデル」

■現状を見ると課題山積

○「GIGAスクール構想」実現のためには多くの
タスクをクリアしていかなければならない

タブレット端末

通信環境

セキュリティー

オンライン学習・授業

サポーター

個別最適化の学び

学習コンテンツ

校務支援システム整備

ICT推進教員育成
学校ICT組織改革研究

データサイエンス

○教育現場にはITスペシャリストがいない

**→ビズリーチの力をお借りして副業・兼業でITスペシャリスト
を公募し、「GIGAスクール構想」の早期実現を！**

「GIGAスクールさいたまモデル」

■なぜ ITスペシャリストとの連携を考えたか

- 副業・兼業という形をとることでキャリアのあるプロフェッショナルな人材の力を借りられる
- ビジネスプロフェッショナルとの連携で、さいたま教育にこれまでとは全く違った視点が導入される
- DX人材にかかわっていただくことで教育委員会にIT・ICTに関するスキルやノウハウが蓄積される
- 教育のプロ×ITプロのコラボレーションで教育現場に化学反応を起こすことができる
- 教育における歴史的転換点で一緒に仕事をするとは、DX人材にとっても魅力的ではないか

「GIGAスクールさいたまモデル」

■GIGAスクール・アドバイザー (プログラム・マネージャー)

- さいたま市のGIGAスクール構想の実現に向けた
全体像設計及びIT戦略策定
施策実行に関する支援
プロジェクト管理
課題や進捗の可視化についての助言



「GIGAスクールさいたまモデル」

■教育ICTインフラアドバイザー

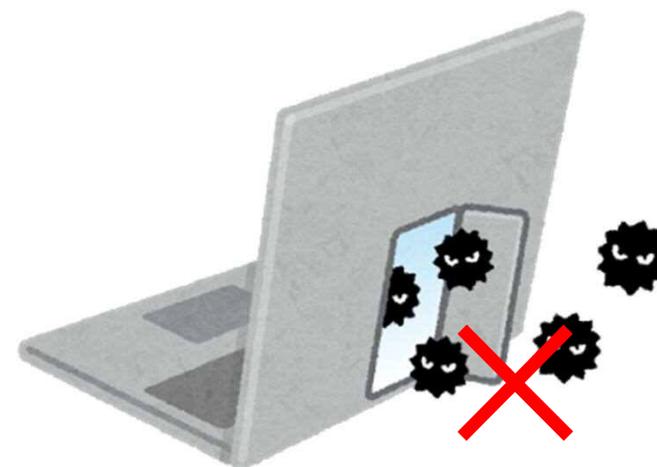
- 端末・クラウド・サーバー・ネットワーク運用等に関する知識を活かした業務
- 学校内外の通信環境や端末の通信環境に関するアドバイス



「GIGAスクールさいたまモデル」

■セキュリティ・アドバイザー

- 情報セキュリティポリシー策定支援、
学校内システムセキュリティ構築支援、
機密情報、個人情報の管理規定の策定支援と
運用支援等



「GIGAスクールさいたまモデル」

■ デジタル&オンライン教育コンテンツ アドバイザー

○ オンライン分野において質の高い学習コンテンツ
や魅力ある学習コンテンツづくりに関する知識を
活かした業務

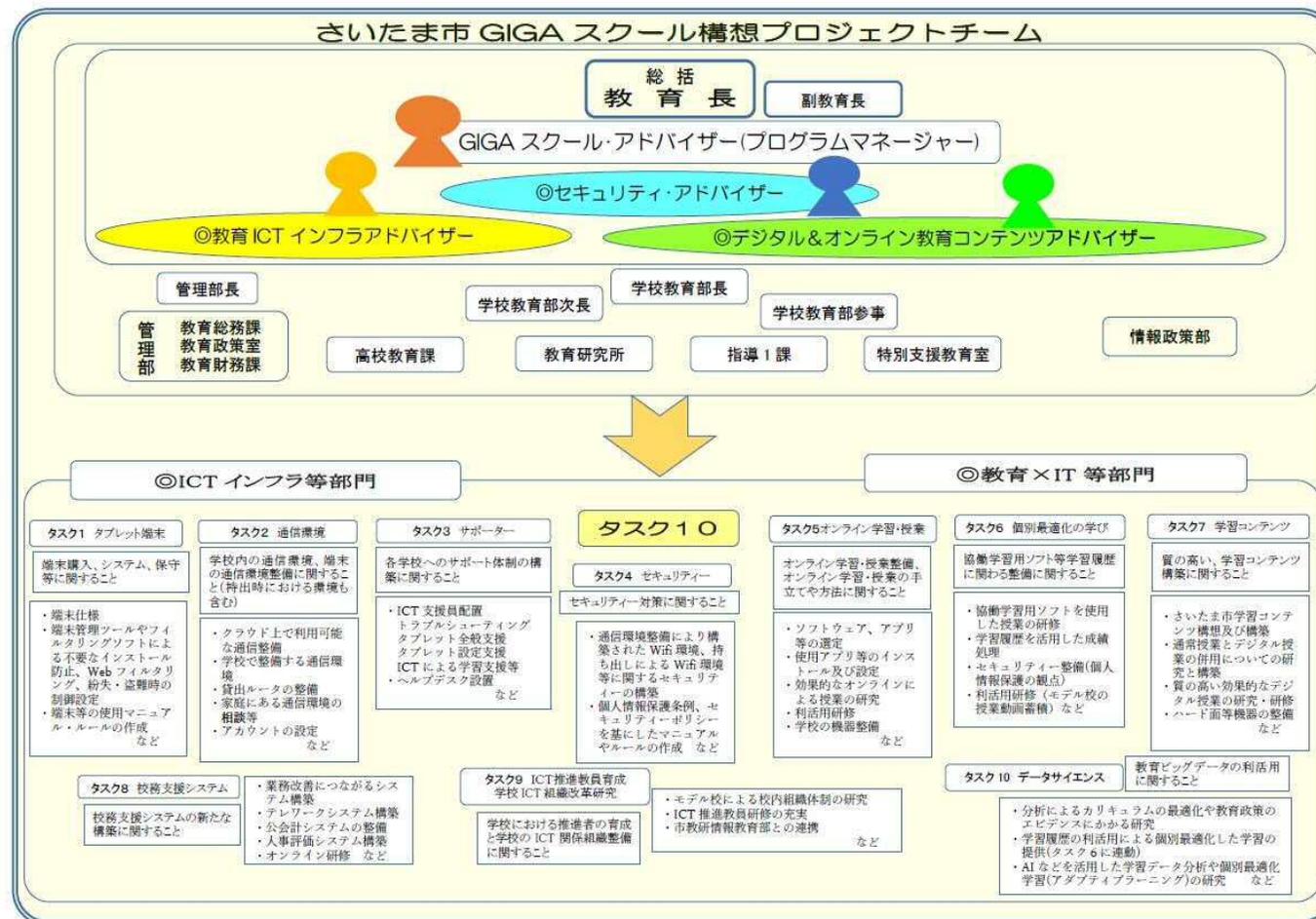
新しい学習・授業の在り方を模索し作り上げて
いくパートナー

○ デジタル教科書等への対応



「GIGAスクールさいたまモデル」

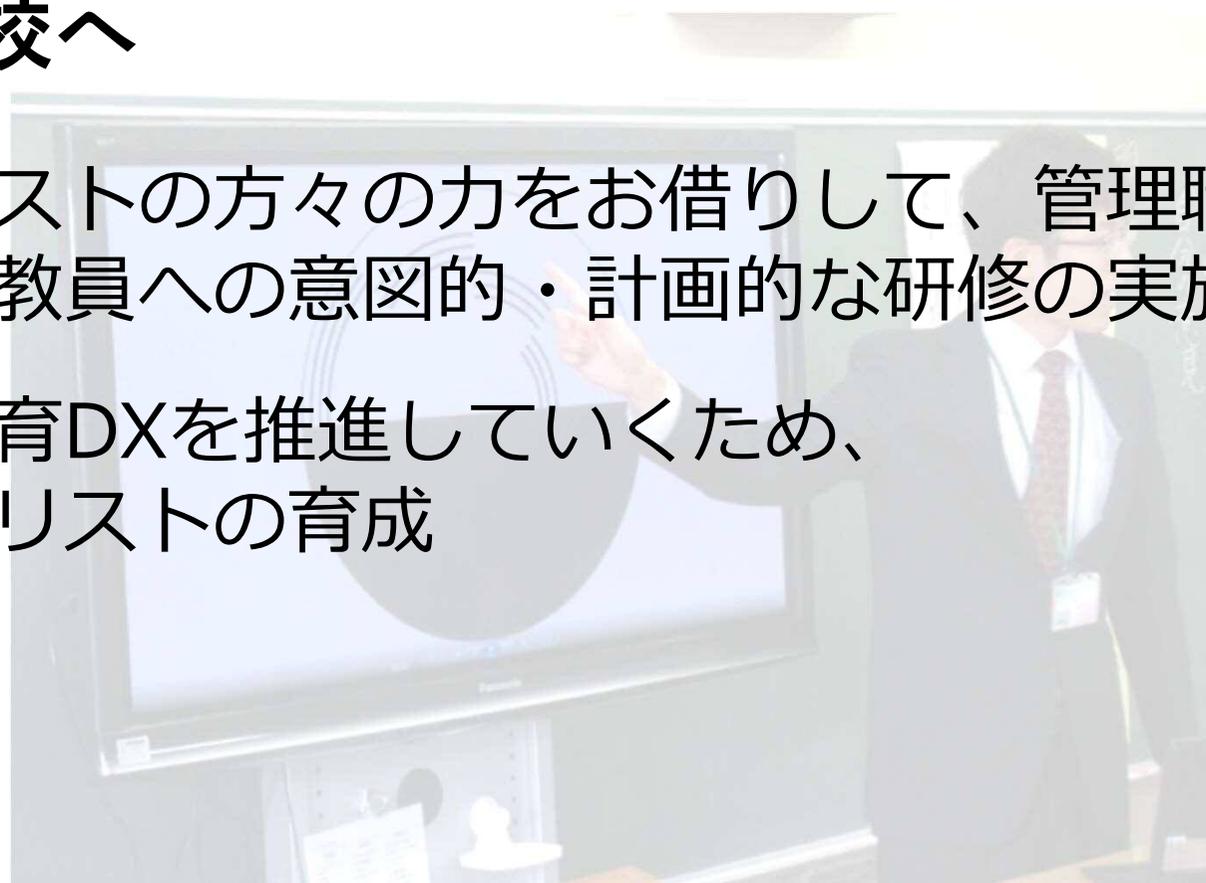
■ 「GIGAスクール構想プロジェクトチーム」の結成 ○教育委員会とITスペシャリストの方々とのタッグ



「GIGAスクールさいたまモデル」

■ 「GIGAスクール構想プロジェクトチーム」 から学校へ

- スペシャリストの方々の力をお借りして、管理職、情報化推進教員への意図的・計画的な研修の実施
- 各学校の教育DXを推進していくため、エバンジェリストの育成



「GIGAスクールさいたまモデル」

■ 「1人1台端末」を活かした学びの変容



ステップ1
“すぐにでも” “どの教科でも”
“誰でも”活かせる1人1台端末

ステップ2
教科の学びを深める。
教科の学びの本質に迫る。

ステップ3
教科の学びをつなぐ。
社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現に活かす。

学びのパラダイムシフトが起こる！

「GIGAスクールさいたまモデル」

■対面とデジタルのハイブリッド型授業

○対面の授業とデジタルの授業のハイブリッド型授業で、校種や発達段階に合わせたベストミックスを探っていく



「GIGAスクールさいたまモデル」

■GIGA×さいたまSTEAMS教育

- Science（科学）Technology（技術）
Engineering（工業）Art（芸術）
Mathematics（数学）を融合したSTEAM教育
に、サッカーのまちさいたま市らしく、
Sports（スポーツ）を加えた、
「STEAMS教育」を推進していく
- 今、必要な「21世紀型の探究的な学び」の推進

→実社会にある課題と向き合い、新しい価値を生み出すことができる思考力を育成する

**Society5.0時代を生きる
子どもたちのために
さいたま市教育の未来図を
一緒に描いていきましょう!!**